

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立操山中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫 _____）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒703-8236
岡山県岡山市中区国富3丁目11-1
E-mail misaomtc@city-okayama.ed.jp
Website http://www.city-okayama.ed.jp/~misaomtc/
幼児児童生徒数 男子 321名 女子 282名 合計 603名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

操山中学校では「福祉と人権の町づくり」を活動テーマとして、ESDを「いろいろな人とのつながりにより持続可能な社会を実現するための教育」と捉え、ESDの実践により主体的に社会と関わり、いろいろな立場の人と共同して問題解決を図る力を育てたいと考えている。

具体的には「人権」、「平和」、「福祉」を柱に、①環境に係わる学習、②地域の伝統文化・文化遺産に係わる活動、③人権・平和に係わる活動、④健康・福祉に係わる学習を行った。

① 環境に係わる学習

総合的な学習の時間に班単位で環境問題についての調べ学習を行い、1月22日（月）には津山圏域クリーンセンターリサイクルプラザの中平徹也さんを招き「持続可能な社会にしていくなために～私たちにできること～」と題して、講演会を行った。「知ること」、「気づくこと」をスタートに「考えること」、「行動すること」ができる力を身につけさせることができた。

② 地域の伝統文化、文化遺産に係わる活動

● 後樂園小中合同ボランティア（コラボら）

小中学校の代表生徒と後樂園の担当者が企画・運営し、夏と冬の2回のボランティアを行った。夏は曲水の無数にある玉石を裏返しきれいにした。冬は落ち葉の清掃を行った。小学校低学年から中学生・保護者を合わせて150名近い参加者が集まった。

● 操山史蹟めぐり

学区には寺社や石碑などの文化財が多いが、現在、学区に住んでいる人のほとんどが学区外からの転入者であるため、学区の歴史を知らない人が多い。また、近年、マンションが多く立ち並び町内会などの組織が成立しにくい状況がある。そのため学区全体から参加を募り、11月23日（木）史蹟めぐりを行った。幼児から高齢者まで約400名の参加があり、地域交流、世代間交流の有意義な場を設定できた。中学生はボランティアガイドやクイズ、調理の補助を行った。

③ 人権・平和に係わる活動

第2学年では5月19日（金）に広島で平和研修を行った。グループ毎に平和記念資料館や原爆ドームなどを回り、核問題について学習した。被爆者からの話も聞け、あらためて核兵器の恐ろしさを実感できた。また、事前学習で核問題について考え、北朝鮮の核問題についても意識付けができた。

④ 健康・福祉に係わる学習

第1学年では障がい者や社会福祉について学習した。12月14日（木）に近隣の公共施設のバリアフリーの調査を行い、課題について考え、発表した。



① 環境に係わる学習



② 地域の伝統・文化遺産に係わる活動



③ 人権・平和に係わる活動



④ 健康・福祉に係わる活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 放課後や休日)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ＥＳＤの視点を生かした体験活動、ボランティア活動の推進を重点目標に掲げ、地域や社会に積極的、主体的に関わる態度、力の育成に努めている。各教科、道徳、学級活動、総合的な学習の時間を通して、生徒が主体的に学べるよう指導方法や課題の設定の仕方を工夫している。

しかし、人との関わりが苦手な生徒が多いため、主に１年生を中心にソーシャルスキルトレーニングを行い、コミュニケーション力の育成に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎年、各学期に１回の授業研究会を行い、指導案の検討や指導・評価についての研修を行っている。

また、幼・小・中合同授業研究会を行い、各発達段階に応じた目標を設定しＥＳＤの授業研究、研修を行っている。

その他にも、小中合同のボランティアを生徒に企画させ、地域社会の形成者として主体的に係わる力を育成している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

操山中学校史蹟めぐりや後樂園小中合同ボランティアなどの課外の活動では、実行委員会において地域の方々や参加した児童・生徒から反省点や課題点を上げて貰い、次年度の活動をより良いものに行っている。後樂園での活動では職員の方からも評価していただいている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校便りを発行し、紙で配付するとともに、学校のホームページに学校便りを載せ、誰でも見えるようにしている。発信により地域の方々から意見をいただいたり、参加、協力の声をいただいたり、必要な教材の提供の申し出があった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

三郷学区防災キャンプでは中学生と岡山大学のボランティアサークルが共同で、一つのブースの企画・運営を行った。活動により地域の団体や公民館、大学生とのネットワークが形成され、いろいろな立場の人と中学生が協働している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ホームページなどで他のユネスコスクールの活動を参考にしている。国外のユネスコスクールとの交流はしていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

以前はボランティアや地域の行事に参加する生徒が少なかったが、現在では定員を大きく上回る希望があり対応に困ることも多い。登下校時の地域の方々から中学生への声かけや互いのあいさつも日常的に見られるようになり、地域と学校の距離が縮まったことを実感している。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

活動自体は今年度と同じものを予定しているが、より生徒が主体的に係われるように、細かい内容については生徒に考えさせる予定である。

活動計画は、新年度になって生徒に考えさせるため、ここで担当者が記述することはできない。